

## 島嶼 SDGs プロジェクト

### 水産

#### 「島の藻場の保全と再生の取り組み」



#### 課題

島の海の豊かさを如何にして守るか？（SDGs 14に関連）



#### 活動内容

##### ～社会を巻き込んだ活動～

藻場を再生するには、漁師さんだけでなく地元の方が磯焼けについて知り、市民参加型で藻場造成することが大事だという考えから、海洋未来イノベーション機構の西原准教授は新上五島町の協力の元、有川中学校の中学生に藻場生態系の大切さについて紹介、海藻の幼体を培養してもらい、これを自身の研究室の活動として海中に植林しています。



藻場の大切さについて紹介する西原准教授



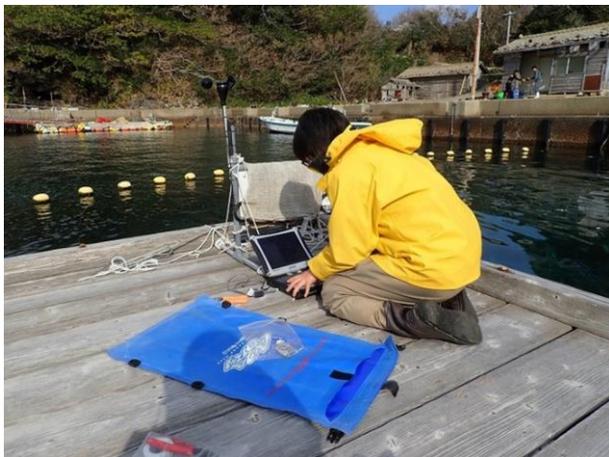
海藻(ノギリモク)の幼体培養セット

##### ～研究活動～

磯焼けがこれ以上広がらないためにはどうしたらいいか？西原准教授の水圏植物生態学研究室では同じ島の中でも藻場が繁茂している場所と磯焼けが進み、藻場が再生しない場所のなにが違うかを突き止める研究を行っています。また、藻場を再生・保全するための幼体の植林をより効果的に実施するための方法を小値賀島役場の協力の元、二次離島の六島で検証しています。なお研究を行うための資材の一部(モアリス)は共和コンクリート工業株式会社から提供されています。



水中に環境観測機器を設置。藻が繁茂する場所、少ない場所でなにが違うのか?!



小値賀町の二次離島・六島にてデータ収集



海中で実験を行う際の土台(モアシス)は  
共和コンクリート工業株式会社が提供

### ～大学として、社会のために～

海に潜り研究をするだけでなく、海に潜る者としてできる事をする。水圏植物生態学研究室では研究の傍ら新上五島町の有川湾において海中の清掃活動を行い、沈んでしまったゴミを引き上げています。

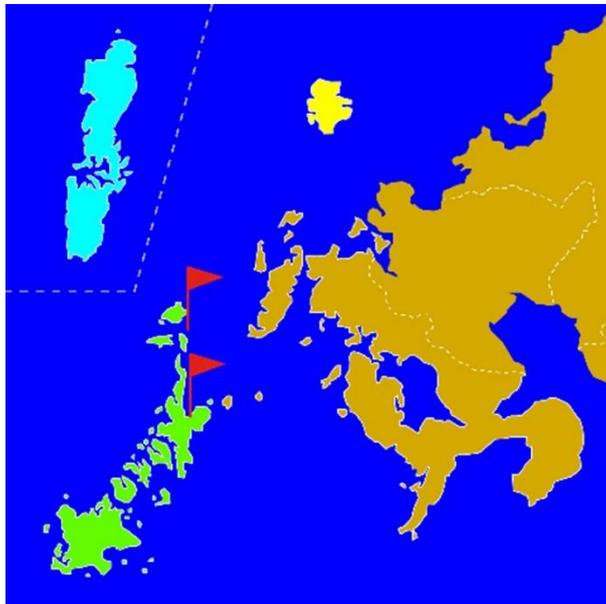


2018年8月の清掃活動で引き揚げられたゴミの一部



清掃活動を行う水圏植物生態学研究室の学生

## 場所・拠点



小値賀町 六島 / 新上五島町 有川(拠点あり)

## 中心人物・組織

**西原 直希 准教授** (海洋未来イノベーション機構)

水圏植物生態学研究室の Twitter で活動をチェック！  
<https://twitter.com/nagasaki-prof>

## 参加人数規模・期間

研究活動は 10 人前後で行い、基本的に新上五島と小値賀(六島)には毎月調査に向かう。  
海藻の幼体を培養に参加している中学生は 50 人前後。

## パートナーシップ または FUNDING

- ◆ **Pew Marine Fellow**  
米国の Pew Charitable Trusts (Pew 環境保全財団)が賞与するフェロー。このフェローシップは海洋環境や海洋生物の保護、保全のために優れた研究や教育活動を行う個人や団体に賞与されるもので、これまで海洋生態系の専門家を中心に 38 か国から 164 人が選ばれている。西原准教授は 2018 年に 3 人目の日本人として選ばれた(支援機関は 2021 年までの 3 年)。
- ◆ 新上五島町 総合政策課
- ◆ 小値賀町役場 産業振興課
- ◆ 共和コンクリート工業株式会社
- ◆ 長崎県水産部 資源管理課(H30 年藻場回復総合推進事業にて)